

No. 996

氷上の激突

—日ソ親善アイスホッケー—

2月11日、東京代々木の国立オリンピック特設リンクに1万人の観衆を集めて行なわれた日ソ親善アイスホッケー第3戦。日本は、西武、国土の兄弟連合チーム。これまで日本は通算5連敗とあって、日本チームは立ちあがりから激しい速攻を見せ、ソ連・ポストークにせまる。5分にオマリーのロング・シュート、7分には岩本がスナップショットを決めて、初めて2-0ヒリード。ソ連ポストークも、得意の細かいパスをつないで、12分にアルダシェフがゴール。しかし日本チームは、日本リーグに2連勝している西武の復活を思わせる生き生きとしたプレイでポストークの組織プレーを分断、来日以来5連勝のポストークを苦しめた。4-2と日本のリードで迎えた第3ピリオド。

はじめて劣勢に立たされたソ連は猛反撃を開始。4分にチェリコフのゲット、6分にベレゴイドフの見事なバックハンドシュートでついに同点。王国ソ連の底力をまざまざと見せつけた。しかし日本チームもがんばり、9分には岩本、若林（兄）の黄金コンビで絵に画いたようなゴールを奪って再びリード。

初勝利を目前にしながら、執ようにせまるソ連、ポストークのバブリンが11分にゴールを決めて再び同点。残り時間を両軍は氷上で激しくぶつかり合い、得点のないままついに引き分け。速攻プレーの日本、組織プレーのソ連の氷上の激突にスタンドは湧きあがった。

浅間噴火

2月1日、爆発を起こした浅間山はその後も連日、噴煙をあげ、小爆発をくりかえしています。*前兆がない。だけに噴火の予知は難かしく、軽井沢測候所は徹夜の観測です。日曜日ともなると*新しい名所"になった浅間山を見ようと、あちこちから、見物人が押しかけます。

噴火を始めたため、軽井沢署員が交通規制をしても、そこは見たい一心、警告もなんのその、双眼鏡を持ち出し、カメラでパチパチ、記念撮影の花ざかりです。別荘地ナンバーワンの軽井沢、しかし、雪に変わって石が降るとあっては、契約解消も続出とか……。

天明3年の大爆発では部落が全滅したところもあるとは言うものの、これまで人畜の被害がなかっただけに、噴火を楽観視する人たちが多く、浅間山は目下新しい観光地というところです。